

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価（3月31日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	生徒が自ら課題を発見し解決する探究力を身に付けながら、進路希望実現に向けた力も身に付けられる授業改善を実施する。  これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動を充実させる。	①組織的な授業改善テーマ「深い学びの実現に向けた授業実践」について全教科で研究を行う。 ①高校及び大学の一貫した学びの仕組みである高大接続教育課程開発を引き続き行う。 ②SS 課題探究・理数探究において外部資源を活用し、生徒の探究力を育成する。	①授業研究月間を設定し、相互に授業を参観し、また公開研究授業を実施して改善を進める。 ①理数探究の指導方法及びSS 物理・SS 化学・SS 生物の指導内容について大学と協議を進める。 ②大学研究室による通年指導、TA 派遣、県相人材バンク等を活用する。	①生徒による授業評価の結果。 ①高大接続教育課程協議の進捗状況。 ②大学研究室による通年指導回数、TA 派遣人数、県相人材バンク登録人数及び活用回数。	①授業研究月間を2回実施し、11月には「教科等横断的な視点を活かした授業実践」という題で公開研究授業を実施した。 ①理数探究の研究室接続について、受入3大学と協議を行った。SS 生物では高大接続試行授業を実施した。 ②昨年度より研究室接続している生徒が台湾で行われた学会で発表した。TA 派遣はのべ30人を超えた。県相人材バンクを活用しサイエンスセミナーや県相先輩セミナー等を実施した。	①授業研究が効率的に進められるようスケジュールを見直し、授業研究月間は年1回に集約していく。 ①SS 生物における試行を生かして次年度よりSS 物理、SS 化学、SS 生物で高大接続授業を実施していく。 ②研究室の研究内容と生徒の研究内容とのマッチング方法を工夫していく。県相人材バンク直近の卒業生をTAとして活用する方策を検討していく。	・授業では教科を探究的に学んでいるのか、探究学習とのつながりを生徒が意識できているのかを検討したほうがよい。 ・授業研究の成果を教科内容の精選に使い、それぞれの教科科目で重複している分野を削る形にはどうか。 ・外部の大学で課題研究に関わった生徒の学びを教員はどのぐらい理解しているのか。 ・県相人材バンクはとても良い取り組みであると思う。積極的に広げてもらえるといい。	①組織的な授業改善テーマ「深い学びの実現に向けた授業実践」について全教科で研究を行い、授業改善を進めることができた。 ①理数探究の研究室接続協議や、SS 生物における高大接続試行授業は成果があった。 ②SS 課題探究・理数探究において外部資源を活用するための協議を進め、活用の枠組みを作ることができた。	①各教科の授業における探究的な学びを充実させ、教員学習と課題探究とのつながりを生徒が意識できるよう、授業改善を進める。 ①試行の成果を生かしてSS 生物、SS 物理、SS 化学で高大接続授業を本格実施する。 ②県相人材バンク活用の運用ルールを作り、本格的に運用していく。
2 生徒指導・支援	校訓「礼節・信義・根性」、モットー「文武両道・切磋琢磨」を基盤とする高い次元での教育活動の展開を通し、獲得した知識・技能を活用し、多様な人々と協働的に活動し、リーダーとして社会に関わろうとする人材を育成する。	①学校行事・部活動を通して生徒の責任感・社会性を育むとともに、リーダーとして必要な資質を育成する。 ②教育相談体制を充実させ、困り感を持つ生徒の早期発見・対応にあたる。	①生徒たちが主体的に学校行事や部活動を行い、生徒自らが課題発見・課題解決できるサポート体制を整える。 ②教育相談コーディネーターが中心となってSC・SSWとの情報共有を密にし、保護者とも積極的に連携して困り感を持つ生徒のケアにあたる。	①学校行事・部活動が主体的に実施できたか、アンケートを実施する。 ①部活動の加入率及び活動内容。 ②コア会議、ケース会議の開催状況、困り感を持つ生徒の改善状況。 ②担任との面談時間の確保状況。	①生徒主体の学校行事となるよう教員がサポートした。アンケートでは98%が学校行事に対し肯定的な回答をした。 ①部活動加入者は兼部者も含めて830名。加入率100%であった。アンケートでは95%が部活動に対し肯定的な回答をした。 ②コア会議を適切に開催し、外部機関とも連携して生徒支援に努めた。 ②年2回1週間授業短縮を行い面談を実施した。	①より多くの生徒が学校行事に主体的に取り組むよう、体育祭・文化祭幹部生徒と協議を進めていく。 ①部活動数が多いため、部活動顧問の負担が大きい。 ②SC・SSWと協力し、かながわサポートドックと面談を活用して、困っている生徒の支援体制を充実させていく。	・生徒主体の活動が根付いていると思う。 ・学業と部活動の両立が図られ、主体性と協調性が育まれている。 ・不登校等の精神的な課題のある生徒に対しては外部のフリースクール等の支援も必要かと思う。 ・将来社会に貢献出来るリーダーを育成するうえでも引き続ききめ細かなケアをお願いしたい。	①生徒たちが主体的に学校行事や部活動を行い、生徒自らが課題発見・課題解決できるサポート体制を整えることはできた。 ②教育相談体制を充実させ、困り感を持つ生徒の早期発見・対応にあたることはできた。	①部活動担当教員の負担軽減に向け、方策を検討していく。 ②引き続き困り感を持つ生徒の早期発見・対応ができるよう、オンザフライミーティングによる情報共有等も活用しながら、支援体制を充実させていく。
3 進路指導・支援	将来の自らの姿を意識した、大学やその後につながる学びの継続性と、社会で求められる資質・能力が身につくキャリアプラン作りを指導し、主体的で、継続的・計画的に粘り強く物事に取り組む力を育成する。	①校外の研究成果発表会、科学の甲子園、科学オリンピックや学会発表等への参加者を増やす。 ②進路実現に向けて継続的・計画的に粘り強く取り組む生徒をサポートする体制を充実させる。 ②生徒の進学に対する意識を高め、学力向上につなげる。	①先輩の参加実績等を示しながら意欲のある生徒を中心に参加するよう促すとともに、事前指導を充実させる。 ②模試、高大連携講座、面談等を効果的に配置し、進路通信等で随時情報を提供することで、継続的・計画的に粘り強く取り組む力を育成する。 ②県相人材バンクの活用をさらに進め、卒業生による講演を企画したり、卒業生をメンターとして活用したりする企画を充実させる。	①校外の研究成果発表会、科学の甲子園、科学オリンピックや学会発表等の参加生徒数及び結果。 ②キャリアプランの作成状況。 ②卒業生による講演の実施状況、卒業生によるメンターの活用状況。	①科学の甲子園8名、科学オリンピック24名参加。ほか7大会で生徒が探究成果を発表した。 ②進路行事は予定通り実施した。11月には3年生出願指導検討会を開催し、きめ細かな進路指導を実施した。 ②SS 課題探究で県相人材バンクを活用し、卒業生の講演を実施した。また県相先輩セミナーで1・2年生に対し経験を伝える機会を作った。	①研究成果発表の体験談を先輩に伝える機会を作って、参加者を増やしていく。 ②1・2年生対象の進路支援を充実させ、より早く進路に向き合う生徒を増やしていく。 ②引き続き県相人材バンクの活用を進めていく。	・台湾での学会発表や科学の甲子園、オリンピックの参加等は、将来の自分の姿を意識し、探求することができる素晴らしい取組だと思う。 ・3年間の課題研究の成果を活用した大学入試へのチャレンジも進められると良い。 ・進路の時間の中で、自分の将来の仕事をじっくり考える時間が必要である。	①校外の研究成果発表会等に参加し、成果を上げる生徒が出てきた。 ②模試、高大連携講座、面談等を効果的に配置し、進路通信等で随時情報を提供する、卒業生による企画を充実させる等、進路指導を充実させることができた。	①引き続き先輩の参加実績等を示しながら意欲のある生徒を中心に参加するよう促していく。 ②模試データ活用の研究を進めていく。 ②課題研究の成果を活用した大学進学について、大学と協議を進め実現していく。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月25日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域から期待されるニーズを理解し、教育活動を地域と連携しながら実施し、学校外の多様な人々と協働的に活動する機会を通じて豊かな人間性や社会性を涵養し、社会に貢献できるリーダーを育成する。	①本校の特色や取組を積極的に発信し、地域や中学生及びその保護者に理解してもらおう。 ②地域行事参加や福祉施設訪問等、学校外の多様な人々と協働的に活動する機会を設定し、豊かな人間性や社会性を涵養する機会を作る。	①ホームページの整理を更に進めるとともに、こまめに更新する。 ①生徒有志も運営に加え、中学生やその保護者等に対し魅力がある学校説明会を企画、開催し、効果的な広報活動を行う。 ②学校運営協議会制度を活用して、学校外において生徒が豊かな人間性や社会性を涵養する機会を増やしていく。	①ホームページの整理状況および更新状況。 ①学校説明会の実施状況および参加人数及び学校説明会参加者アンケートの内容。 ②学校外における多様な人々と協働的に活動する機会の回数及び参加生徒数。	①部活動、SSH活動等を中心に更新した。 ①学校説明会3回に加え、学校見学も実施した。学校説明会は生徒有志が説明や相談を受けるようにした。参加者にも好評であった。 ②部活動単位で春夏の地域イベントへの参加、公民館イベントへの参加4回、老人ホームやこども園でのボランティア3回を実施した。	①HP担当者に更新業務を集中させると更新頻度が落ちるので、原稿を各担当で作成し、HP担当は整理とアップに集中できるように仕組みを作っていく。 ②引き続き地域行事参加や福祉施設訪問等を実施し、豊かな人間性や社会性を涵養する機会を創出していく。	・生徒主体の地域との連携を一層進めてもらいたい。 ・今年度卒業生の一人が無料学習支援を毎週行っていた。子どもたちの相手をしつつ勉強もして希望の進路に進んだのと、多様な人とつながる機会を作ることは必要だと思う。 ・更なる地域連携や地域行事への参加など機会をお声かけいただきたい。	①生徒有志も運営に加えた学校説明会を企画、開催し、参加者の評価もよいものであった。 ①ホームページの整理・更新は予定通りに進まなかった。 ②地域行事の参加は部活動単位で実施することができたが、個人のボランティア参加を促す取組に課題があった。	①HP原稿を各担当で作成し、HP担当は整理とアップに集中できるように仕組みを作っていく。 ②生徒に多様な人とつながる機会の重要性を理解させ、ボランティア参加を促していく。
5	学校管理 学校運営	生徒の多様な活動を引き出しつつ、安全安心に生活するための学習環境整備や、生徒と向き合う時間の確保や事故の未然防止のための働き方改革に向けた、組織的で機動的な学校運営を進める。	①生徒が安全安心に生活できるための学習環境整備を進めるとともに、非常時の安全確保について体制を整える。 ②教員の働き方改革を推進し、教員が生徒と向き合う時間を確保し、生徒の事故を未然に防ぐ。	①危機管理マニュアルを整備し、職員に周知・共有する。 ①具体的に災害を想定して、効果的な防災訓練を企画し実施する。また非常時における共助の重要性を指導する。 ②校務の無駄を洗い出して見直すとともに、ICTを活用した会議の効率化、情報の電子化による共有を進める。	①危機管理マニュアルの整備・共有状況。 ①防災訓練の実施方法及び回数。 ②校務の改善状況、ICTを活用した業務の効率化の達成状況。	①危機管理マニュアルを整備し、職員室に常備するとともに、電子データをサーバで共有した。 ①防災訓練を2回実施した。DIGを取り入れ、非常災害時に自ら考えて行動する態度を育成した。 ②勤務時間管理システムを活用して、長時間の時間外勤務に対する注意喚起を行った。	①危機管理マニュアルは各自で確認しておくように指示はしているが、内容を共有する時間がなかなか取れない。 ①外出中など学校外で災害に遭った時の訓練も今後検討していく。 ②7時間授業が3日あり、部活動も盛んなため、校務をより効率化して、勤務時間を削減しながら生徒に向き合う時間を減らさない工夫が必要である。	・高校生は災害時には被災者であると同時に支援者でもあるということ意識した防災教育を進めることが必要である。 ・業務の整理と不要なものは削って時間の余裕が作られるようにできると良い。 ・どの職場でも仕事は増える一方なので、減らす業務を管理職に判断していただく必要がある。	①防災訓練を2回実施し、非常災害時に自ら考えて行動する態度を育成することができた。 ②勤務時間管理システムを活用して、長時間の時間外勤務に対する注意喚起を行ったが、具体的な業務の削減を実行することはできなかった。	①災害時には被災者であると同時に支援者でもあるということ意識した防災訓練実施を検討する。 ②削減、効率化できる業務を洗い出し、業務の削減を管理職が積極的に進めていく。